

今日的な課題の解決に向けて

「知識基盤社会」の時代に対応する教育をめざし、平成20年3月より順次、学習指導要領が改訂されています。「生きる力」をはぐくむという基本理念を継承しつつ、子どもたちが次の3つの要素からなる学力を身につけるよう求めています。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 学習意欲

小学校や中学校では、平成21年度より移行措置が始まりました。各校とも子どもや地域の実態を考慮した独自の指導計画作成に取り組まれていることでしょう。

教育センターでは、基本研修や専門研修以外にも特別企画研修「児童虐待防止に向けて」、ピア・サポート指導者養成研修などを企画しています。また、特別支援教育推進ルームを開設し、各校の特別支援教育コーディネーターの活動をサポートしています。今日的な課題を指導計画に反映するヒントになればと考えます。

各校園の研究活動の成果が豊かに実りました

児童・生徒に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康や体力」などの「生きる力」を育む教育の推進をめざし、学力向上をはじめとする教育課題の研究や、学校現場における教育目標の達成や課題解決に向けた研究の支援を目的として、「学力向上クリエイイト研究」「今日的課題研究」「アクションプラン推進型研究」「グループ提案型研究」の4分野を設定し、40校園40グループを研究実施校に指定しました。全国学力・学習状況調査の結果を活かした「学力向上クリエイイト研究」や、新学習指導要領を見据えた「今日的課題研究」では、大学の研究者等の協力を得ながら、下記のようにテーマを設定し、授業公開ならびに研究成果を発表していただきました。それぞれの研究発表会では、多くの校園からの参加者が集まり、公開授業を熱心に参観したり、研究協議で活発に意見交換したりする姿が見られました。この研究支援事業で先進的に取り組まれた実践事例が全市に広がり、それぞれの校園で深められていくことを期待しております。

【学力向上クリエイイト研究】

学 校 名	研究テーマ	研 究 主 題
聖 和小学校	授業力の向上	自ら調べて考え、問題解決に取り組む子どもを育てる
鯉江東小学校	授業力の向上	子どもの「国語力」を高める指導法の工夫 - 表現力(書く力)をつける -
東都島小学校	授業力の向上	自ら学び、考え、表現する力を育成する - ICTの活用を通して -
小 路小学校	授業力の向上	変化を生き抜く力をつける学習 - とともに学びをひらくことを通して -
花乃井中学校	学力向上検証改善システムの構築	生徒の自主学習能力の育成 - 「学びの基本」の徹底と「学びの機会」の充実を図る -
中 島中学校	授業力の向上	教科スタジオ方式 - 新たなる小集団教育のありかたをさぐる -
夕陽丘中学校	授業力の向上	できる・分かる を実感させる授業改善 - 興味を持たせやる気にさせる導入の工夫 -
大正中央中学校	授業力の向上	授業力の向上 - 指導方法や授業形態の工夫・改善を図る -

【今日的課題研究】

学 校 名	研究テーマ	研 究 主 題
鶴 見小学校	小中連携	小中連携を基盤とした小学校英語活動 - 伝え合う力を高めるための授業研究をめざして -
豊 仁小学校	小中連携	英語活動における指導法の研究 - 楽しんでコミュニケーションしようとする子どもを育てる -
大正東中学校	小中連携	小中連携を基盤とした小学校英語活動 - 指導者間の連携のあり方と学習活動の充実 -

学 校 名	研究テーマ	研 究 主 題
西淡路小学校	小中連携	つなぐれ なかま 楽しい学び！
十 三中学校	小中連携	異年齢集団「ピア・サポート活動」の試み 他者との関係性により、五感で「生きる力」を育む JUSO プロジェクト - 社会体験活動の認知に基づき、他者とコミットメントして、近未来の市民社会を創る多主体協働型「心の教育」実践研究 -
住 吉中学校	小中連携	つながり、わかる小中連携 - ひと・夢・希望 -
清水丘小学校	環境教育	清水丘 環境キッズ研究隊 - 「知る環境」から「行動する環境」へ -
啓 発小学校	理数教育	子どもたちがいきいきと伝え合う算数科学習 - 学び合いの過程を重視して -
晴明丘南小学校	健康教育	学び合い、高め合いながら楽しさを味わい、課題解決に すすんで取り組める子どもを育てる - 体育科の指導を通して -
五 条小学校	人間関係力の育成	豊かな心と体をはぐくみ たくましく生きる力を育てる - なかまとともに 心と体がはずむ体育科学習 -
生 江小学校	言語力向上 人間関係力の育成	子どもが「学び合う」授業づくり - 全員の「できた」「わかった」を活かして -
天 満中学校	言語力向上	総合的な学習を中心とした基礎学力向上の取り組み - 総合的な学習の時間を活用したキャリア教育 -
木 津中学校	道徳教育	人間として生きる喜びを見いだす道徳の時間の 実践・創造をめざして 道徳教育の授業実践の深化・充実に向けたスキルアップを図る -
昭 和中学校	情報教育	情報社会における危機管理とモラル - 情報リテラシーや情報処理能力を高める学習 -
港 中学校	校種間連携	小中連携の推進 - 小中連携を推進し、学力の向上を図る -
東 高等学校	理数教育	理解と定着を図るための「東高校理科実験書」の作成（PART1） 実験書の作成により、予習・復習を容易にし、 スムーズな実験の実施と、理解の定着を図る
咲くやこの花 高等学校	校種間連携	併設型中高一貫教育校での中学校分野別学習における 校種間連携について
鶴 見 商業高等学校	キャリア教育	生きる力を育むキャリア教育の研究 - 魅力ある街づくりのためのキャラクター・ビジネスの研究 -

学びを深める校内LAN活用の試み

1 ユビキタスネットワークスクール事業とは
教育センターでは、平成16年度よりパソコン教室だけでなく、各教科の授業が行われる普通教室や特別教室でインターネットが閲覧できるように校内LANの整備を行う事業（ユビキタスネットワークスクール事業、以降「ユビキタス事業」と略）を行い、授業改善に役立つ情報通信技術（以降ICTと略）活用のあり方を研究してきました。

平成20・21年度ユビキタス事業モデル実施校には、電力線通信方式による校内LAN、普通教室および特別教室用の授業用ノートパソコンなどのICT機器を整備し、実践研究を行いました。

2 学びを深める校内LAN活用

今年度はすべてのモデル校が公開授業を行い、研究成果の発表をしました。実践の一部を紹介します。

南住吉大空小学校

2年算数「かけざん」の学習では、授業の導入で全員が学習課題をとらえることができるように、パワーポイントの映像を用いました。具体的な映像を示すことにより、イメージを膨らませ、ふくろの数は変わったときのクッキーの数を考えるという課題をとらえることができました。また、イ



答は何でしょう？（南住吉大空小）

ンターネット上のフラッシュ教材を使い、前時の学習内容を復習しました。次々と現れる問題に、どの子も先を争って答えていました。出題のテンポが授業にリズム感を与え、子どもたちの学習意欲を沸き起こす効果がありました。

堀江小学校

1年道徳「しりたいな いろいろなくに ～遊びやことばを通して～」では、様々な遊びや言葉をとおして、

他の人とコミュニケーションを図ろうとする気持ちをもつことができるようにすることをねらいとしました。



お話したい人はいますか？（堀江小）

言語の分布を示した世界地図を提示し、世界にはたくさんの言語が話されていることに気づくことができました。英語の話形を練習（チャンツ）するために、パソコンを使って映像と音声を再生しました。また、Webカメラを使って、離れた場所にいる人と会話を楽しみました。「パソコンを通して、外国の人と会話できた」という強い印象は、もっと話したい、どうしたら自分の考えを伝えることができるの？という学習問題へとつながりました。授業を参観していた保護者から、「視覚に訴え、非常にわかりやすい」「子どもたちがいきいきと活動できていた」という感想をいただいています。

高津中学校

1年社会（地理）「自然環境の特色をとらえよ

う」では、パワーポイントで作成した自作教材を使い、生徒一人ひとりが世界の国々の国名や首都、位置を復習することから授業が始まりました。



グーグルアースを見よう(高津中)

次に「グーグルアース」を活用して日本の国土の特徴を調べていきました。各地の衛星写真が3次元処理されているので、画面を傾けると立体的に山脈が現われたり、登録した場所を自動で移動する機能を使うと国土の中央部に高い山が幾重にも重なったりする様子が一目瞭然に示されました。生徒たちは、イメージを膨らませて国土のようすをとらえることができました。「授業展開の効率が上がり、時間の余裕が生まれる」「困っている生徒の横で指導することができる」など授業改善につながり、成果を上げることができました。

授業後の研修会では、「授業以外にも教材研究や指導の準備や評価などにICTを活用する教員が増えている」「ICT活用を軸として『わかる授業』『魅力ある授業』づくりに向けて、教科の垣根を越えた交流が生まれている」という報告がありました。

3 成果と今後の課題

南住吉大空小学校の子どもたちは「都道府県を覚えることが楽しかった」「実際には行けない場所の様子を映像で見ることができてうれしい」「平行や垂直を書くときの三角定規の使い方がわかった」など、ビデオやシミュレーション動画など学習の流れに沿った資料を提示することで、子どもたちの理解が促されたといえます。

教員からは「ことばで説明しにくいところを

分かりやすく教えることができた」「板書の時間が短縮でき、机間指導しながら、一人一人の学習状況をつかむことができた」という意見が出されました。

校内LANを活用した授業を参観した保護者からは「わかりやすい授業である」「楽しんで学んでいる」などの意見が寄せられました。

課題として、「ICTのより効果的な活用を工夫する」「機器の準備に時間がかかる」「作成した教材を学校や市全体の財産として活用できるようにする」などがあげられています。

モデル校の創意工夫に満ちた実践により、ICTを活用することによって日々の授業が変わり始めてきました。紹介できなかったモデル校の実践もあわせて、教育センターのWebページ「にぎわいねっと」にこのユビキタス事業の詳細を掲載していますので、一度ご覧ください。

(にぎわいねっと) → (大阪市教育センター) → ログイン(教職員ID, パスワード) → (ユビキタス報告)



店ではたらく人びと(北恩加島小)

平成22年3月末には、大阪市のほとんどの教室からインターネットもできる環境整備が完了しました。各校でもICTを活用した授業改善の取り組みが始まります。今後も、モデル校と連携を図りながら、各校のICT活用指導力の向上の支援に努めていきます。

H20.21 ユビキタス事業モデル実施校

(特別支援学校) 聴覚
 (中学校) 大淀 西 高津 本庄
 (小学校) 開平 堀江 北恩加島 聖和
 茨田東 阪南 住之江 南住吉大空

特別支援教育推進ルームの開設

1 特別支援教育推進ルームの開設

教育センターでは、各校園の特別支援教育コーディネーターの活動を支援する取り組みを進めております。その中心になる窓口として、平成21年7月1日に「特別支援教育推進ルーム」を開設しました。

「特別支援教育推進ルーム」は、各校園における特別支援教育の更なる推進を目指し、特別支援教育コーディネーターの活動を中心にサポートを行うことを目的に開設しました。特別支援教育推進ルームでは、以下の4つのことを中心に活動を進めています。

- (1) 特別支援教育にかかわる研修
 - ・ 特別支援教育コーディネーター研修
 - ・ 校園に出向いての研修 など
- (2) 特別支援教育にかかわる研究
 - ・ 障害の状況に応じた指導・支援の研究 など
- (3) 特別支援教育にかかわる校園からの相談
 - ・ 校園内体制づくり、指導、教材についての相談 など
- (4) 特別支援教育にかかわる情報提供
 - ・ 教材・教具、サポートツールの紹介 など

その他、特別支援教育コーディネーターの教職員が、日頃の活動で困った場合にはいつでも相談していただける体制をとっており、各校園の取り組みを支援していきたいと考えております。

2 各区特別支援教育コーディネーター連絡協議会の開催

平成22年度より、各校園の特別支援教育コーディネーターが区ごとに集まる「各区特別支援教育コーディネーター連絡協議会」を開催するため、平成21年1月・2月にプレ連絡協議会を開催しました。

この連絡協議会では、次の2つを大きな目的にしています。

- (1) 障害のある、あるいはあると思われる幼児・児童・生徒の指導や支援の充実に向けた学校間連携を進める。
- (2) 特別支援学校の地域支援を促進するため、各校園と特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの校種間連携を進める。

プレ連絡協議会では、区内の特別支援教育コーディネーターの顔合わせ、連絡協議会の意義や特別支援教育推進ルームの説明、特別支援学校の地域支援を求める場合の手順の説明などを行いました。また、参加者の中から、それぞれの区で核になっていただく「コアメンバー」の選出を行いました。「コアメンバー」には、平成22年度から開催する「特別支援教育コーディネーターコアメンバー養成研修」を受講していただき、更なるスキルアップを目指す予定です。

特別支援教育推進ルームの開設

大阪市教育センター

目的:各校園における特別支援教育の更なる充実を目指し、特別支援教育コーディネーターの活動を中心にサポートを行う。

特別支援教育コーディネーター研修の充実
〔実態に応じた特別支援教育コーディネーター研修の実施
特別支援教育コーディネーターコアメンバー養成研修の実施
各校園における研修会の実施〕

障害の状況に応じた指導・支援の研究
異校園種間連携についての研究

研
修

教材・教具、サポートツール、指導案等に関する情報
関係機関に関する情報
特別支援教育に関わる情報等

研
究

特別支援教育
推進ルーム

情
報
発
信

指導・支援の実施の相談
校園内の支援体制づくりの相談
実態把握の相談 等

相
談

特別支援教育推進ルーム(電話、来所、訪問)
特別支援学校紹介
通級指導教室紹介
他機関紹介(指導部、エルムおおさか等)

コーディネーター
の取り組みを支援

生きる力・確かな学力を育むピア・サポート活動

1 3年間が経過して

ピアとは「なかまや同僚」、サポートは文字通り、「サポートする・支援する」という意味です。ピア・サポートとは、学校教育活動の一環として、教員の指導・援助のもとに、子どもたちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係をはぐくむために行う教育活動です。その教育活動がやがては思いやりのある学校風土の醸成につながることを目的としています。なかまがなかまを思いやり、支え合う活動は、人権教育の長い営みの中でも、とても大切にしてきたことです。

本市では、「いじめ」や不登校をうまない学校づくりをテーマにピア・サポート活動を推進し、3年が経過しました。初年度受講された方が、次年度の受講生の先輩としてのサポートを、更に、3年目の本年度は、学校でピア・サポート活動を推進するための研究をすすめていただいています(表1)。まさに、教員同士のピア・サポートです。

2 主な研修の紹介

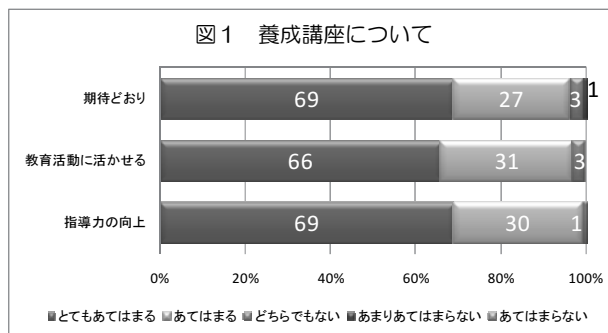
□ トレーナー養成講座

日本ピア・サポート学会認定コーディネーターの有資格者に講師をお願いし、2日間にわたって、ピア・サポートを学校で実践できるように、理論・スキル・方法を体験的に学びます。小学校教員と中学校教員と一緒に学ぶなかで、受講者同士のつながりや交流がもたれ、95%を超える教員が、「期待どおりの講座であった」「教育活動に活かせる講座だった」「指導力の向上につながった」という肯定的な回答をしています(図1)。

表 1 年間計画

三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	
子どもフォーラム	フォローアップ講座		フォローアップ講座	中間発表会	実践講座		サポーター養成講座	トレーナー養成講座	決定	募集		平成十九年度
啓発	学校支援とフォローアップ			←教員研修→			啓発	啓発		啓発	啓発	啓発
子どもフォーラム	実践講座	フォローアップ講座	中間発表会	実践講座	フォローアップ講座		サポーター養成講座	トレーナー養成講座	決定	募集		平成二十年度
手伝い参加	←	受講			←	講師	手伝い	ピア・サポート活動実践		19年度受講者		
広がり	学校支援とフォローアップ			←教員研修→			学校支援		学校支援		啓発	啓発
子どもフォーラム	実践講座	フォローアップ講座	中間発表会	実践講座	フォローアップ講座		サポーター養成講座	トレーナー養成講座	決定	募集		平成二十一年度
手伝い参加	←	手伝い・サポート			←	講師	手伝い	ピア・サポート活動実践		メンター(19・20年度受講者)		
教育センターフォーラム発表	←	研究協力員会議	←			研究協力員会議	研究協力員会議		研究協力員		研究協力員	
広がり	学校支援とフォローアップ			←教員研修→			学校支援		学校支援		啓発	啓発

図1 養成講座について



□サポーター育成講座

本年度は、実際に子ども（小学生50名、中学生47名）も参加し、2回にわけて咲くやこの花高校で実施しました。子どもたちはコミュニケーションスキルのトレーニングや、なかまのために自分たちができることは何かを考えあいました。



写真
出合ったなかま
とディスカッション
する中学生

写真
協力しあって、洗濯機
を表現する小学生



その後、参加した子どもたちは、学校で児童会や生徒会のリーダーとして頑張っていると受講者の教員の声がよせられています。

3 教員間のピア・サポート体制づくり

平成19・20年度のピア・サポート活動推進事業に参加された教員の中から、メンター(世話役)や研究協力員として活動いただいています。

□研究協力員会議：学期に1度会議を開催

《研究テーマ》

- ・小学校6年間のプログラムづくり
- ・もめごとを解決するプログラムづくり
- ・小中連携プログラム
- ・健康教育プログラム
- ・サポート活動実践事例

□メンター連絡会：必要に応じて開催

《主な活動》

- ・ピア・サポートトレーナー養成講座のスタッフ
- ・地域開催のピア・サポート研修会の講師
- ・ピア・サポーター育成講座の企画・講師
- ・フォローアップ講座の企画・運営等のスタッフ
- ・子どもフォーラムの企画・運営等のスタッフ 等



メンター連絡会

4 成果と課題

トレーニング中心の取り組みから、各学校で子どもたちがなかまをサポートする活動が増えています。

《サポート活動の例》

○異年齢集団を活かした活動

- ・お掃除名人隊
- ・遊び名人
- ・読み聞かせ
- ・学習サポート
- ・校外オリエンテーリング

○学級のなかまづくり

- ・私のできるちょこっとサポート
- ・協同学習

○小中連携の取り組み

- ・学習サポート
- ・学校紹介
- ・クラブ体験

キーワードは“学びあい”

学力の向上が本市の大きな課題であります。考え方・表現の仕方・課題解決の仕方・つながり方・行動のとり方など、子どもたちは子どもたちを手本として学んでいます。こうした学びあいの機会を積極的に作り出すことが、生きる力を育み、確かな学力を向上させると研究協力員やメンターの教員は実感しています。今後もピア・サポート活動を活かした学校づくりを推進していきます。

児童虐待の早期発見と防止に向けて

1 二度と悲劇をおこさないために

平成16年、市内で児童虐待致死事件が発覚し、翌17年6月に本市教育委員会は「大阪市児童虐待防止支援委員会」を設置しました。平成18年3月、「児童虐待の防止等に関する法律」の一部改正をふまえ、教職員の手引き「児童虐待の早期発見と防止—子どもの『安心』への支援—」改訂版をまとめ、各校園に配布し、研修、啓発を行ってきました。

平成21年4月、市内の児童虐待致死事件が発生しました。児童のあざなど虐待を疑わせるサインを発見しながらも、児童の尊い生命を奪われる結果となりました。

日々、虐待の恐怖と絶望の淵にいる子どもたちが存在することを、私たちは知らねばなりません。虐待に抵抗する声と力を持たない子どもたちに、気づく感性を私たちは持たねばなりません。救う手立てを私たちは知らねばなりません。

2 大阪市児童虐待防止支援委員会からの提言

7月、大阪市児童虐待防止支援委員会は以下の内容の「児童虐待の早期発見および防止に向けての提言」を出しました。

①教職員の対応

教職員は児童虐待を発見しやすい立場にある。サインに気づいた時、一人で抱え込まず、相談し、また多方面からの情報を得る。そして積極的に関係機関との連携を図る。

②校園内組織体制の確立

虐待の疑いが生じた場合、直ちに校園内委員会を開催し、意識的・定期的に状況把握をし、校園長に情報を集約し、また教職員間で情報の共有を図る。

③教育委員会としての支援

教職員が虐待についての知識を多面的に取得できるよう研修会を継続的に実施し、また各校園からの相談に対して専門的に支援する相談窓口を設ける等の体制作りを図る。

④行政機関の協同した取り組み

行政各関係局が連携し、市民に啓発活動を行い、意識を向上させて情報提供しやすくし、関係機関が緊密に連携するよう努める。

3 研修の実施

以上の内容の提言を受け、以下の研修を実施しました。

全市校園長対象（7月10・13・14・15日）と各校園の児童虐待防止に向けての委員会の代表教員対象（7月30日）の研修会では、大阪市児童虐待防止支援委員会の梶谷健二座長と岩佐嘉彦座長代理から「提言」内容の詳しい説明と強いメッセージを受けました。

養護教職員対象には、大阪府の監察医や府警警察医を務める河野朗久医師より「法医学から見た児童虐待」という内容で被虐待の子どもたちの傷痕からその現実を教えていただきました。

地域研修では、児童相談所や健康福祉センター、カウンセラーやボランティアなど、虐待と直接関わってきた方々による研修を各地域で実施しました。

4 これから

教育に携わる私たちは、虐待に関しては「疑う」ことを恐れず、繊細な感性と勇気を持って取り組む決意がいます。今後、教職員が虐待の要因や判断等について実践的な力を持てるよう、継続して研修会を実施し、児童虐待防止の支援に努めていきます。